

「家がいいね」 第185号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2019. 10. 1

ネンキンの話

今回も生き物の話なんです。老後の貯えが2千万円必要という年金の話ではないんです。

粘菌とは動物と植物の性質を併せ持つ不思議な生物です。倒木の上に網目状に広がるのは一つの細胞で、アメーバのように餌を求め移動します。



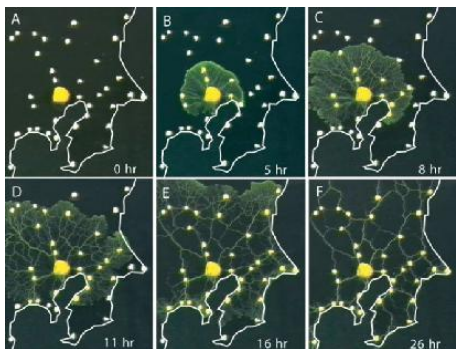
でも状況が悪化すると植物化して動かなくなり胞子を飛ばし、新しい場所へと舞台を移します。地球生物の中でも生存能力の高いものなのでしょう。胞子を孕む形は可愛らしいものです。アニメのナウシカが腐海の底で採取する場面を想像します。人間の生命の中にも、粘菌力はあるはずですよ。



脳で考えない生物だっているわけで

脳と中枢神経系が際立って活動の基になっている私たちでも、全てを考え抜いて生きていくわけではありません。健康な身体を支える免疫機能のため多くの細胞が作られます。多種の外敵に対抗するため、多様な免疫細胞が作られますが、外敵に出会わない細胞は自ら死ぬ方法が取られます。何億という細胞の死は、私たちの生を支えるため必要なムダなのです。生と死は反対語ではなく、生きているとは、こういう矛盾によって脳以外でも支えられます。中村桂子先生に教わった話です。

単細胞の粘菌は、脳を持つ生き物よりも最適な餌の経路を見つけている凄いシステムを持っています。粘菌が迷路の中で餌と餌の最短距離をつなぐ働きを、東京近郊の型の中に入れてとコンピュータより早く回答します。その答えが既存の鉄道網と同じ形だとは驚きです。



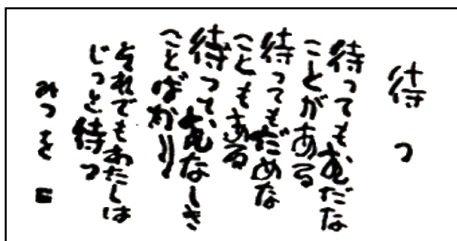
診察で交わす言葉5 「待てないんです」

彼岸花は時を待つて必ず咲いてくれます。待てない人がいます。思い通りに進まないと思いや苛立ちで事態がさらに悪くなります。

脳が先々を考え過ぎ身体が応じられないと、自分を責める傾向も加わるのです。身体は自然界の中にあるのですから、時期を待つ流れが当然ながらあるのですね。



脳が働くのは、人対人の意識の世界ですから、時間制限は求められない理になるのです。生きる力は自然の中で補われます。待つしかない時は、確かに在るのですよね。



「情熱大陸」に在宅ホスピス医 内藤先生

10月6日(日) 23時〜 CBCテレビ 番組の紹介文から引用します。30分放映。ご覧ください。

「いのち」に寄り添う医師。

内藤いづみ自身が模索する

『究極の在宅医療』とは。



「そこには希望があり、笑顔があります」という内藤。死の現場で、なぜ笑顔があるのか？今回は「内藤先生が大好き」と言う94歳、老衰で人生の幕を閉じようとしている女性とその家族を通して、内藤が実践する「在宅ホスピス」の現場に密着。内藤の熱い思いに迫る。

10月22日(火)は休診します



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
ホームページ <http://isezaitaku.com>

↑バックナンバーはここで閲覧可